

鳥山頭ダム 世界遺産に

台湾に推進本部

「八田技師の功績、形に残す」

金沢出身の八田一技師が台湾で建設した鳥山頭ダムの世界遺産登録を目指す運動が台湾で始まった。現地の土木や農学関係の大学教授らが推進本部を設立し、「他に例のない自然と融合したダム」を世界に発信する。台湾は国連やユネスコ(国連教育科学文化機関)に加盟していないため、日本側に協力を求めている。関係者は「台湾と日本を結ぶ八田先生の功績を一つの形として残したい」としている。

登録に向けた運動は「台湾警察专科学校(台大に留学経験のある「北市」の許光輝助教授



日本側に協力求める

鳥山頭ダム(日本統治下の台湾南部で1920(大正9)年から10年がかりで建設された。当初は東洋一のダム。灌漑目的の大きな水路を通し、不毛の大地だった臺南平原を穀倉地帯に変えた。世界遺産条約 1972年のユネスコ総会で採択された。文化遺産、自然遺産、複合遺産の3種類があり、昨年7月現在、878件がリストに登録されている。

台湾で世界遺産登録に向けた運動が始まった鳥山頭ダム
昨年10月、台南県

が、八田技師の墓前祭に参列した日本の学者との議論を通じ、緻密に計算された設計や自然環境に配慮した構造など、鳥山頭ダムの素晴らしさを再確認したことがきっかけ。世界遺産として恥ずかしくない登録申請に向けた運動も合わせて申請することを申し合わせた。

許助教授の呼び掛けに応じた台湾大の教授らと昨年十一月、推進本部を設置。鳥山頭ダムのほか、広大な臺南平野を潤すために整備された総延長約一万六千キロの用水路と、三三三(三年輪作法)も合わせて申請することを申し合わせた。

今月十日には、日本側の協力を得るための方針や申請に向けてダム、水路、三年輪作法それぞれの特性の研究、申請条件などについて話し合う予定。五月八日に営まれる八田技師の墓前祭に合わせ、金沢市から参列する関係者との話し合いも計画している。

台湾では、昨年発足した馬英九政権が国連加盟をめくり、「主権国家」として加盟を求めるといふ従来の方針を改め、名称にもこだわらずに世界保健機関(WHO)など国連専門機関へのオブザーバ参加を目指すとの柔軟姿勢を打ち出した。

八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会(金沢市)の中川外司事務局長は「国際的な問題もあり、鳥山頭ダムの世界遺産登録は簡単なことではないが、我々としてもできる限りのお手伝いはしていきたい」と話した。その上で「良いものは良い」と認める機運を台湾側と一緒に盛り上げていくことが大切だ」とエールを送った。

金沢側もエール

日本と台湾をつなぐ歴史のきずなとして今、2つのダムが注目を浴びている。戦前の日本統治時代に台湾南部で相次いで完成した地下ダム「二峰圳」と「烏山頭ダム」。荒れた大地を水で満たしたダムは今も現役で活躍しており、地元での知名度も高まってきた。2つのダムを懸け橋として、新たな草の根の日台交流も活発化しつつある。

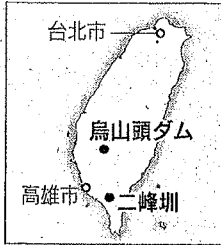
昨年12月中旬、台湾の教育部(文部省)に招待された日本の高校生約100人が台南県の烏山頭ダムを訪れた。日本人技師の八田与一氏が1930年に完成させたダムは当時、アジア最大の規模を誇った。現在は公園として整備されているダムのほとりには、何か考え込むように片ひざを立てて座る八田氏の銅像がある。

「八田先生のおかげで周辺地域は農産物がたくさん取れるようになりました」。ガイドの話に引き込まれる高校生たち。川崎市から来た堀田悟さん(18)は「八田先生の

2つのダム

日本人技師が統治時代に建設

日台交流の源



高校生100人招く ■地元住民が慰霊祭

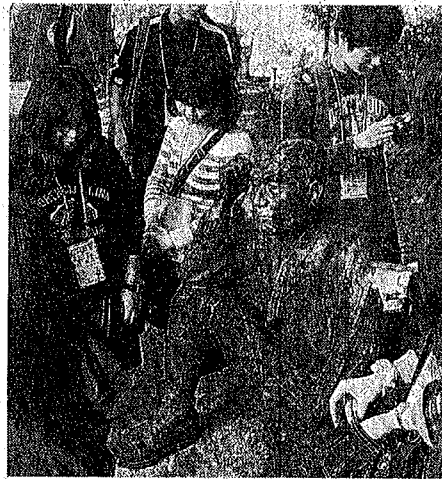
ことは知らなかった。人の役に立つダムを造ったのはすごいと思ったこと感想を語った。八田氏の命日にあたる5月8日には毎年、地元の人々が慰霊祭を開いて

おり、一昨年に続き昨年も馬英九総統が足を運んだ。日本は台湾を50年にわたり植民地支配したが、「台湾にとっていいことをしてくれた日本人には感謝したい」と馬総

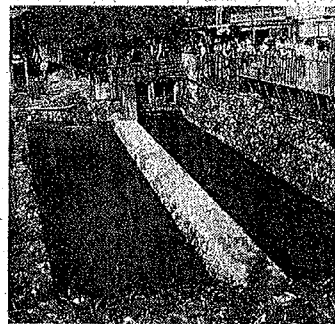
統も八田氏の功績をたたえる。静岡県袋井市。市民の憩いの場所となっている「月見の里学遊館」の玄関口に昨年7月、同市出身で台湾の地下ダム「二

台湾南部の山は険しく夏場には雨水が一気に流れ、時には荒れ狂って洪水を巻き起こす。だが、降雨量が減る冬場には川の水が枯れ、地下を流れる伏流水になってしま

技術師。地元には「世界遺産に」との声もある。鳥居信平氏と八田与一氏が残したダムはきょうも、台湾南部でかけがえのない水を供給し続けている。(台北―新居耕治)



八田与一氏の銅像を見学する日本の高校生(台南県、写真左)と、「二峰圳」でせき止めた清流の水を供給する水路(屏東県)



世界 いまを刻む

台湾製糖の技術者だった鳥居信平氏が屏東県で地下ダム「二峰圳」を完成させたのは1923年。川底の下を流れる伏流水をせき止めて農業・生活用水として活用する方式は、透き通った清流の水をそのまま得られる利点があり、景観も損な

完成してから80年前後たった今、日台交流の懸け橋として注目を集めつつある2つのダムと2人の日本人

峰圳」を建設した鳥居信平氏の銅像が登場した。寄贈したのはABS樹脂で世界トップクラスの奇美実業を創業した許文龍氏(81)。許氏は5年ほど前から自宅で、日本統治時代の台湾で功績を残した日本人の銅像作りを進めている。

昨年11月には原田英之・袋井市長ら袋井市からの訪問団が屏東県を訪れ、二峰圳を見学。屏東県庁なども表敬訪問した。鳥居信平氏をテーマにした「水の奇跡を呼んだ男」の著者、平野久美子さんは「台湾には日本統治時代の歴史を語る場所や建造物がたくさんある。一つでも訪れて自分なりの思いを寄せてほしい」と話す。

「烏山頭ダム水利システム世界遺産登録」

個人連署のお願い

「烏山頭ダム－嘉南大用水路－三年輪作法」の水利システムは、日本人の八田与一技師による設計・建設、日本政府による費用の後押し、台湾人民による出資・尽力を経て、10年の歳月をかけ、1930年に長さ1,273m、高さ56mの天然の堰堤が完成しました。有効貯水量は1億5000万m³に達し、用水路は16,000km以上であり、嘉義・台南等の地区10万ヘクタールの耕作地に灌漑を行っており、天候に左右される不安定な地帯を瞬く間に台湾の穀倉に変え、嘉南地区の農民に利益をもたらしただけでなく、更には国家の経済発展の基礎を作りました。それを持続可能な運営ができるかどうかは、嘉南地区及び国家の長きにわたる発展の重要な指標です。

日本との協力により、世界文化遺産への登録を成功させることができれば、烏山頭ダム水利システムの過去と未来における卓越した貢献に鑑みて、このシステムで採用されている生態工法を第三世界に紹介することができ、わが国と友好的関係にある国に恵みをもたらすだけでなく、台日両国の本質的な関係を促進させることができ、国内の関連産業の発展を促し、政府の嘉南耕作地水利システムの保護に対する更なる重視へとつながり、環境の保護という面において多大な貢献となります。

当同盟は、わが国と日本政府が烏山頭ダム水利システムの重要性を重んじることを訴え、お互いに手を結び、このような立派な水利システムを世界遺産へ登録させます。

氏名	年齢	連絡先又はご意見

本連署用紙は、以下のところにお届けください。

1. ファクス：06-6930121 又は tnnua.dam@gmail.com (台南芸術大学)、又は
2. ファクス：02-2365 2312 又は hinevan@hotmail.com (台湾大学)、又は
3. 関係グループを介し、推進同盟に渡してください

各界からの小額寄付金を歓迎します

(必ず送金用紙の用途欄に「烏山頭ダム水利システム世界遺産登録」を書いてください)

口座名前：中華民國社區營造學會 銀行：華南銀行新生分行 口座番号：113200684927